

執筆者・協力者一覧 (五十音順)

■執筆

天野真志 (あまの・まさし)

→編者。奥付参照。

石川隆二 (いしかわ・りゅうじ)

弘前大学農学生命科学部教授 (作物育種学)。著書・論文に「第1章 奥で保存活用されるシークワサーの知恵」(大西正幸・宮城邦昌編著『環境人間学と地域 シークワサーの知恵 やんばるの「コトバ」暮らし・生きもの環』京都大学学術出版会、2016年)、『「三内丸山遺跡」植物の世界』(共著、葦原房、2004年)、「1. モンスーン農耕圏の人びとと植物」「自然科学からみたイネの起源」(佐藤洋一郎監修『ユーラシア農耕史 1. モンスーン農耕圏の人びとと植物』臨川書店、2009年)

小倉慈司 (おぐら・しげじ)

国立歴史民俗博物館教授 (日本古代史)。著書・論文に「差別の地域史—渡辺村からみた日本社会」(共編、法蔵館、2022年)、『古代律令国家と神祇行政』(同成社、2021年)、「皮革生産・視覚の発生」(『日本史研究』691、2020年)

尾上陽介 (おのえ・ようすけ)

東京大学史料編纂所教授 (古記録学)。論文に「陽明文庫所蔵『臨時祭之事』および紙背『貞観政要』について」(共著、『東京大学史料編纂所研究紀要』31、2021年)、「近衛家家司平時兼の日記『御八講』について」(田島公編『禁裏・公家文庫研究』7、思文閣出版、2020年)、「中世近衛家の日記目録について」(新川登亀男編『日本古代史の方法と意義』、勉誠出版、2018年)

後藤 真 (ごとう・まこと)

国立歴史民俗博物館准教授 (人文情報学、総合資料学)。著書・論文に『地域歴史文化継承ガイドブック 付・全国資料ネット総

覧』(共編著、文学通信、2022年)、『歴史情報学の教科書 歴史のデータが世界をひらく』(共編、文学通信、2019年 <<https://bungaku-report.com/metaresource.html> で公開中)、「日本における人文情報学の全体像と総合資料学」(国立歴史民俗博物館編『歴史研究と「総合資料学」』吉川弘文館、2018年)

渋谷綾子 (しぶたに・あやこ)

→編者。奥付参照。

高島品彦 (たかしま・あきひこ)

東京大学史料編纂所技術専門職員 (古文書・歴史資料の修理、古文書料紙)。論文に「デジタル機器を利用した楮繊維の分析」(『古文書研究』90、2020年)、「薄美濃紙の湿潤強さへの抄紙方法の影響」(『紙パ技協誌』73-6、2019年)、『「中院一品記」所収光厳天皇宸筆書状の料紙について」(湯山賢一編『古文書料紙論叢』、勉誠出版、2017年)

中村 覚 (なかむら・さとる)

東京大学史料編纂所助教 (人文情報学)。論文に、中村覚・高嶋朋子「持続性と利活用性を考慮したデジタルアーカイブ構築手法の提案」(『デジタルアーカイブ学会誌』Vol.5, No.1、2021年)、中村覚・大和裕幸・稗方和夫・満行泰河「Linked Data とデジタルアーカイブを用いた史料分析支援システムの開発」(『デジタル・ヒューマニティーズ』Vol.1、2019年)、中村覚・大和裕幸・稗方和夫・満行泰河・鈴木淳・吉田ますみ「Linked Data を用いた歴史研究者の史料管理と活用を支援するシステムの開発」『情報処理学会論文誌』Vol.59, No.2、2018年)

貫井裕恵 (ぬくい・ひろえ)

神奈川県立金沢文庫学芸員 (日本史)。論文に「金沢文庫 今に息づく日本中世「知」のアーカイブズ」(『書物学』16、2019年)、「中世後期における御影供執事役について」(海老澤衷・高橋敏子編『中世荘園の環境・構造と地域社会』勉誠出版、2014年)、「中世寺院における寺誌の一側面—東寺と「弘仁官符」—」(『アジア遊学 中世寺院の空間・テキスト・技芸—寺社圏論のバースペクティヴ』勉誠出版、2014年)

野村朋弘（のむら・ともひろ）

京都芸術大学准教授（日本中世史・文化史）
著書・論文に「後醍醐天皇を支えた廷臣—
岡崎範国について—」（『國學院雑誌』122（11）
号、2021年）、『史料纂集 宇治堀家文書』
（橋本素子・角田朋彦・野村朋弘編、2021年、
八木書店）、『諡—天皇の呼び名』（2019年、
中央公論新社）

本郷恵子（ほんごう・けいこ）

東京大学史料編纂所所長・教授（日本中世
史）。著書に『室町將軍の権力 鎌倉幕府に
はできなかったこと』（朝日文庫、2020年）、
『院政 天皇と上皇の日本史』（講談社現代
新書、2019年）、『日本の歴史 京・鎌倉
ふたつの王権』（小学館、2008年）

山田太造（やまだ・たいぞう）

東京大学史料編纂所准教授（データ工学・
歴史情報）。著書・論文に「デジタル化され
る日本史料の現状」（『歴史学研究』1000、
2020年）、「歴史データをつなぐこと—目録
データ」（『歴史情報学の教科書—歴史のデー
タが世界をひらく』文学通信、2019年）、
Yamada, T. A classification of a scene in a field
note using topic model. International Journal
of Geoinformatics, 15, pp.25-36, 2019.

山家浩樹（やんべ・こうき）

東京大学史料編纂所教授（日本史）。著書・
論文に「室町幕府初期の財政基盤」（『史学
雑誌』130-6、2021年）、『足利尊氏と足利直
義』（山川出版社、2018年）

■協力

大川昭典（おおかわ・あきのり）

元高知県立紙産業技術センター第二技術部
長（製紙科学）。論文に「古文書紙の繊維組
成及び填料の観察」（湯山賢一編『古文書料
紙論叢』勉誠出版、2017年）、「古代の製紙
技術」（湯山賢一編『文化財学の課題 和
紙文化の継承』勉誠出版、2006年）、「浮世
絵の紙」（『ぶんせき』3、日本分析化学会、
2003年）

富田正弘（とみた・まさひろ）

富山大学名誉教授（日本中世史・日本古文
書学）。著書・論文に「文献史料から見た中
世文書料紙の体系と変遷—檀紙と強杉原—」
（『古文書研究』80、2015年）、『中世公家政
治文書論』（吉川弘文館、2012年）、「古文
書料紙研究の歴史と成果—檀紙・奉書紙と
料紙分類—」（『東北中世史研究会会報』20、
2011年）

湯山賢一（ゆやま・けんいち）

神奈川県立金沢文庫文庫長／東大寺ミュー
ジウム館長（古文書学）。著書・編著に『古
文書の研究—料紙論・筆跡論』（青史出版、
2017年）、『古文書料紙論叢』（勉誠出版、
2017年）、『文化財と古文書学 筆跡論』（勉
誠出版、2009年）